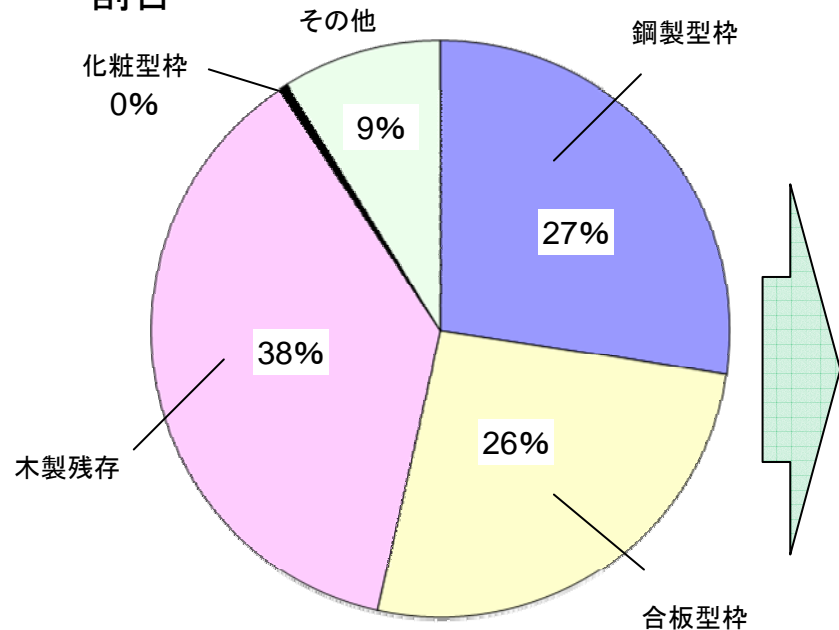


- 森林土木(治山・林道)においては、治山ダムや土留工等のコンクリート構造物で5万m³程度の木製型枠が使用されている。
- 型枠の内訳は、鋼製、合板、木製残存等多様な型枠が使われており、特に近年、地域材利用促進の観点から、木製残存型枠のシェアが高まってきている。
- また、県の特記仕様書において、杉合板の使用を規定することや、型枠の施工歩掛を改正して合板型枠を使用しやすくすることなど、国産材合板型枠の使用量を増やす取組みを進めている。

■コンクリート治山ダム型枠の種類別割合



■国産材合板型枠の使用量増大に向けての取組み

- 県の特記仕様書において、杉合板の使用を規定
 - 型枠の施工歩掛を改正して合板型枠を使用しやすくする
- など、国産材合板型枠の使用量増大に向けた取組みを進めている。

※ 平成19年度の施工件数の割合

出典: 林野庁「平成19年度治山工事施工実態分析調査報告書」
(平成20年3月)より